

「絆の作り手育成プログラム研究指定校」事業報告書（3年次）

1 学校名等

学 校 名	向日市立第5向陽小学校							校長名	野田 昌之	
所 在 地	〒617-0006 向日市上植野町五ノ坪1 電話 075-921-0001 FAX 075-921-0021									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合 計	教職員数	
学 級 数	3	3	3	3	3	2	4	21	31	
児童生徒数	75	80	73	84	75	67	31	485		
連 携 先 (文化財所有者等)	向日市役所、向日市文化資料館、向日市文化財調査事務所、埋蔵文化財センター							※校長・教頭を含む		

2 研究校の概要

これまでの実践や実績をもとに、児童の学習に向かう姿勢が「前のめり」であったり、教員が授業づくりとともに学級経営を考えたりするうえで根幹と考えている児童の「自己有用感」の高揚を引き続き目指すこととした。さらに、学校の教育活動全体にも、児童の自己有用感につながる取組となるように、各行事等にもこの視点を入れるように徹底した。また、特に授業づくりにおいては、昨年度に引き続き、各学年の授業構想（単元計画）では、郷土・人・モノとのつながりを大切にす視点を取り入れた。

研究の仮説は、自己有用感を高める視点を教育活動の中に取り入れることで、教職員の児童を見立てる視点が定まり、学校としてブレのない教育活動ができるとともに、授業づくりや学級経営にもその視点が生かされ、児童がいきいきと学校生活ができると考えている。具体的には、授業中に見せる児童の実態を重視し、特に授業研究において、表情や座る姿勢、意見交換の様子を観察し、校内研究会で情報を共有し評価して指導に生かした。これは、年々意欲的で授業に臨む児童や楽しく課題に向かってグループ活動をする児童が増加していると感じており、教員の手応えとなり、研究を進めるうえでの自信につながっている。一方で、児童の状況を客観的に捉える方法として数値目標を継続した。学校評価アンケートにおいて「わたしにはよいところがある」を肯定的に捉える児童の割合の傾向を注視している。

このように本校は、全教職員が、生活科及び総合的な学習の時間を核として、地域（文化財）を教材としたカリキュラムづくりをはじめ日々の授業、行事等にいたるまで郷土を知り、触れること、自己有用感の高揚を図ることを大切にされた教育活動に取り組んだ。特に6年生は、4年生から本実践とともに学んできており、6年生となり本市の文化財を教材にするとともに、昨年度の6年生から学びを受け継ぎ、レベルアップした学習を実現しようと取り組んだ。また、一貫して6年生の学ぶ姿を、本校研究を通して実践して育みたい児童の姿として捉えて教育活動を仕組んだ。

3 主な研究活動

(1) 構想

- ・ 1年生から6年生まで、地域の学習として「向日市ふるさと学習」を生活科、総合的な学習の時間で進めている。特に6年生は、本指定を中心に位置付けて、社会科の歴史と関連させた学習を行う。
- ・ 各学年の学習過程で、探究のサイクルを大切にした。

→まなぶ・調べる・交わる→考える・まとめる・深める→伝える・やってみる

・6年生の学習目標（ゴール）

①課題解決型の学習で提示された課題の解決策を思考することにとどまらず、考えた解決策を実行する。

②実行できる解決策を考え、考えたことが形になることで、地域の役に立つことを実感する。

(2) 計画と経過

<学校全体>

・「向日市ふるさと学習」に基づく、地域教材や地域人材の掘り出しとともに、本校カリキュラムの改善が進められた。

・生活科及び総合的な学習の時間の各学年の授業研究を全教職員が関わって行った。

・各学年の単元は様々だが、6年間で「児童が向日市に住み続けたい町にする」という思いが持てるように、地域の人と触れ合い、地域のことを知り、自分が関わっていくという共通の目標を掲げた。

・単元例（6年生の3年間の経過）

1年目「日本遺産認定を目指して、向日市の観光施設をストーリー性のある魅力発信へ」

2年目「向日市への提言」 ※前年度を引き継ぎ、市長の願いを直接聞き、提言へ

3年目「2023向日市活性化プロジェクト」

～みんなでチャレンジし、行動した先にあったものとは～

<1年生、2年生>

・生活科を核として、学校の周りの自然や施設、人との関わりについて学習を進められた。

・2年生では、地域の方へのインタビューをはじめ、簡単なプレゼンテーションの作成、発表も取り入れ、主体的な学習、課題解決型の学習への導入を行った。

<3年生、4年生>

・総合的な学習の時間で向日市について、暮らし（自然や公共施設、特徴的な施設）に関わったテーマをもとに児童の疑問をもとにした学習展開ができた。

・地域へのフィールドワークや地域の方々との交流、資料のまとめ、発表など、高学年へのつながりを意識した主体的な学習、課題解決型の学習を行えた。

<5年生>

・総合的な学習の時間において、向日市の暮らしを豊かにする仕組みや福祉をテーマとして、児童の問いを中心にした学習展開ができた。

・年間を通じて、総合的な学習の時間のテーマ設定を工夫し、児童の主体的な学習、課題解決型の学習を行った。

・6年生の学習発表を見て、自分がどのようにどんな学習をするのか展望を持つことができた。

<6年生>

・昨年度の6年生の提言を受けたことを動機付けとし、今年度は、行動を伴う地域貢献を自分たちで発案し、自分たちでプロジェクトを進めた。

・年度当初には、地域のフィールドワーク（古墳・向日神社・寺・遺跡《大極殿・朝堂院》・文化資料館など）を中心に学習し、現状や課題を児童の視点でまとめた。

・年度中盤には、向日市の魅力についてPR資料を作成し、市内の小学校や京都市への校外学習においてこの資料をもとにプレゼンテーションを行い、向日市の魅力についてインタビューやアンケートでリサーチし、地域活性化の新たな視点を模索した。（循環した探究として、向陽高校等との交流でブラッシュアップ）

・年度後半には、児童が、市民に向日市の魅力を発見してもらおうイベントを企画した。（前年度の6年生からの引き継ぎとなる実践化の実現）

- ・史跡公園において、向日市民を対象に向日市の魅力をPRするイベント開催した。(自分たちの町の歴史や文化を知り、それらに愛着をもち、魅力として発信)

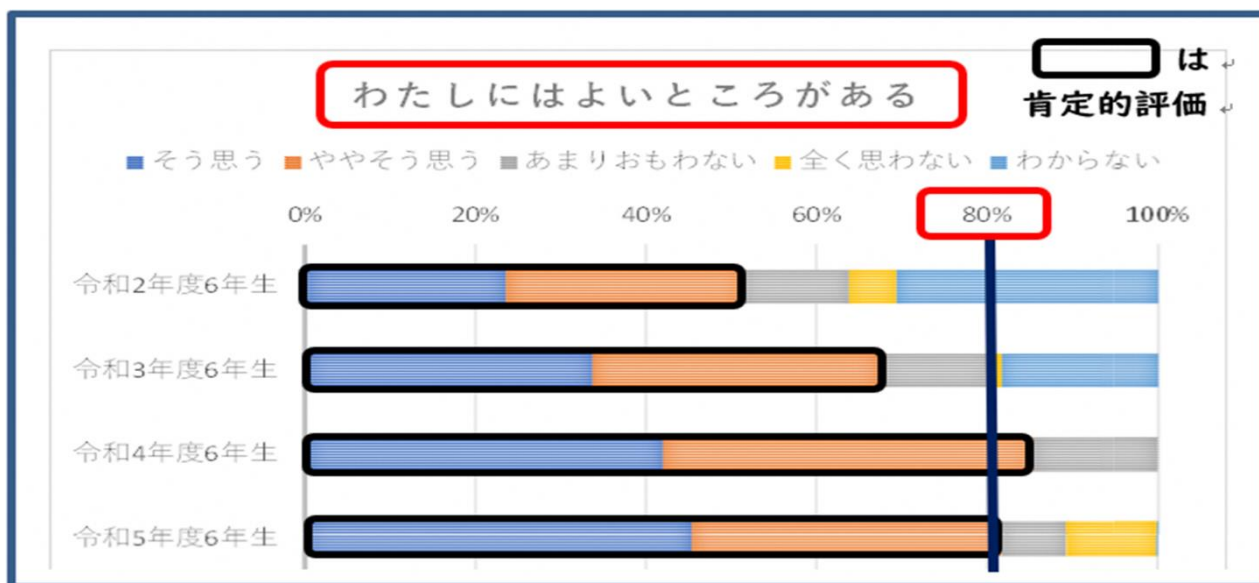
4 今年度の研究の成果と検証

(1) 自己有用感の高揚

①検証の概要

学校評価に関わるアンケート調査(対象は、保護者、児童、教職員)の項目に「わたしにはよいところがある」を設定しており、経年比較を行った。

【令和2年度以降の学校アンケートの結果(6年生児童)の比較】



- ・肯定的な回答が、令和2年度の約50%と比較すると、令和4年度から約80%を越えている。

- ・自己有用感の高揚を目標にした本研究を含めた実践の方向性は効果があると推測される。

②6年児童の学習の振り返り

- ・総合的な学習の時間を1年間勉強してみて、向日市の歴史のことも知らなかったし、ひどくって向日市のことなんか調べてどうなるの?とっていました。でも、向日市のことを自分のことと考えると、みんながくらしやすいように、そして魅力を高めるにはどうすればよいかを最後まで考えることができました。お年寄りから小さい子までが楽しめるようにと考え、実は家族とも相談していました。向日市のことをすきになってくれるように考えつづけたことが楽しかった。
- ・わたしたちの探究というのは、自分たちで探検しながら、研究をずっとし続けるみたいなものかな。まだまだだけど、探究していきたい。

(2) 連携の強化

- ・文化財に関わる関連機関と連携し、モノ、人との繋がりが強化できた。(向日市資料館、文化財調査事務所、埋蔵文化財センター、向日市役所)
- ・地域教材として学習するために、地域にある上植野町公民館や上植野町農家組合、各種事業所との繋がりを強化できた。(教員と地域の方々との繋がりが一層深まった。)

(3) 年間指導計画の充実

- ・全学年でカリキュラムの見直しを図った。(6年生の例)

活用できる年間指導計画へ



学年	1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期	9学期	10学期	11学期	12学期
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
5	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
7	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
8	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12



- 探究のサイクル
- 全体計画との関連
- ふるさと学習
- 人・モノ・こと
- 全学年のもの

5 今年度の課題

- ・生活科や総合的な学習の時間を核として、同じ目標に向かって学習に取り組むことがあらためて大切だと感じた。一方で、児童が主体的に学習に向かうよう、単元のはじめや授業の中で、学習の目標となるねらいを提示したり、「問い」を設定させたりすることの難しさを感じている。
- ・総合的な学習の時間のカリキュラムを作成し、検証している。同時に、地域教材の扱いやフィールドワーク、学習のまとめ、交流などの探究のサイクルが、今後も持続可能な学習となるように、単元の時間配分の軽重をつけたり、各学年の付けたい力と学習内容の系統性を整理したりする必要がある。

6 研究成果の活用について

(1) 今後の予定

- ・総合的な学習の時間については、カリキュラムを見直すものの、児童が探究する姿を大切に今後とも取り組む。
- ・各学年で付けている力を「探究」の視点で、各学年間で引き継げるように、成果の交流等を設定して、下学年に引き継いでいったり、上学年を目指したりできるようにする。
- ・児童が文化財及び地域のよさを実感するためにも、繋がっている校区内や向日市の文化財に関わる方、地域の方との出会いや講話を今後も意図して設定する。
- ・教職員及び児童の「探究」する学習を今後本校で研究する教科（社会）でも活用する。

(2) 所感

- ・各学年の研究授業での児童の様子や6年生のアンケート結果データから、取組が自己肯定感や自己有用感の高揚につながっているものと考えている。
- ・他学年の感想では、「ぼくは、4年生で地域の水のことについて考えてみました。本当にこの1年間で自分の調べ方が変わったと思いました。みんなの発表を聞いて、いろいろな表現方法があるのだなと思いました。総合的な学習の時間では、『調べることに終わりはない』と気づきました。」と表現したり、6年生児童の学習の振り返りからも、主体的に学習を進めている様子や「自分だけでなく他者との繋がりも大切にしながら考えを深めていることが分かる。」と述べたりなど、学校全体として、探究の面白さや主体的な学習の楽しさを表現できる児童が育っていることに気づかされた。

令和3年度～5年度 京都府教育委員会指定「絆の作り手育成プログラム研究校」3年次
令和5年度 向日市教育委員会 研究指定研究校

研究成果報告

地域とともにある学校



向日市立第5向陽小学校
令和6年2月22日(木)

指定を受ける前の子どもたちの様子

受け身・自信のなさ
学ぶ楽しさを感じていない

教職員も悩みが付きにくい

- ・文化財を題材とする課題解決型→何をどうすればよいのか
- ・社会との「絆」を大切にする人材→自分たちもあまり地域を知らない
- ・ICT機器→活用の仕方が分からない

地域とともにある学校



3年間の軌跡・足跡



5向小のめざす単元・授業とは？

この「探究の扉」のリーフレットの
ように、

**「自ら、自分で開いて、
探究の世界にとびこん
でくる」**

ものです。

3年間の軌跡

令和5年度 6年生の実践

「2023向日市活性化プロジェクト」

～みんなでチャレンジし、行動した先にあったものとは～

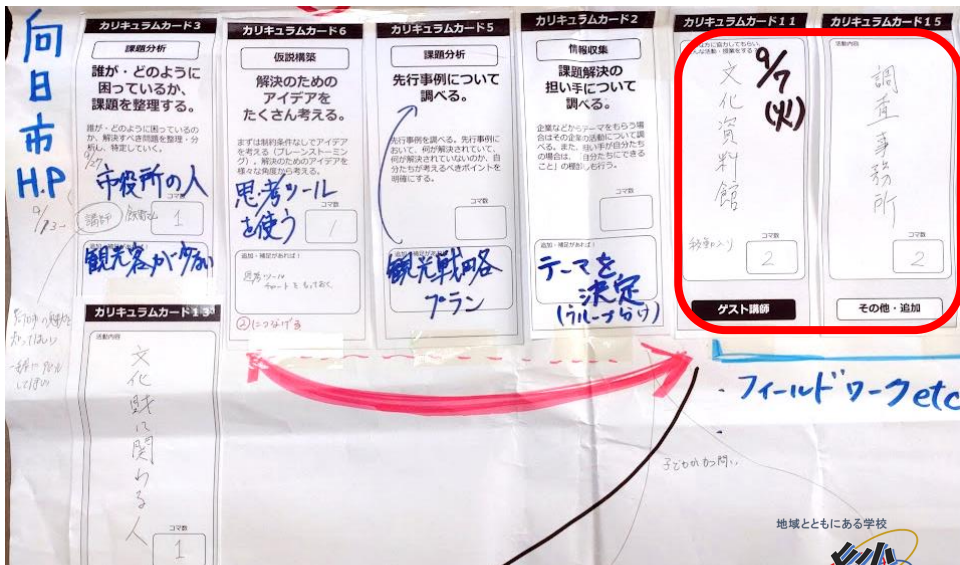
令和4年度 6年生の実践

「向日市への提言」

令和3年度 6年生の実践

「日本遺産認定を目指して、向日市の観光施設をストーリー性のある魅力発信へ」

令和3年度の実践 日本遺産認定を目指して、向日市の観光施設をストーリー性のある魅力発信へ



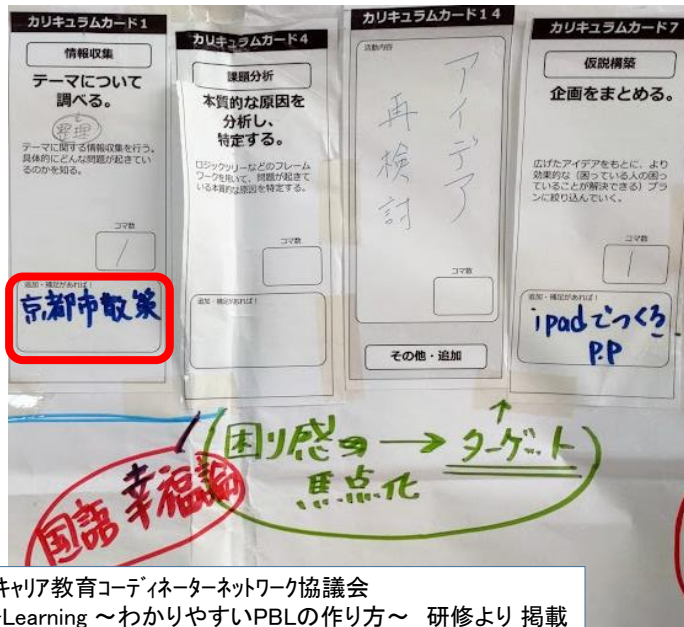
動機付け 意欲喚起

向日市企画広報担当の方より
「市役所でも、向日市をがんばってアピールしているが、なかなか上手いかない。若い目線で教えてほしい。」

一般社団法人 キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会
Project-Based-Learning ~わかりやすいPBLの作り方~ 研修より 掲載



令和3年度の実践 日本遺産認定を目指して、向日市の観光施設をストーリー性のある魅力発信へ



恒例行事 京都市散策を どう組み込むか

向日市と京都市との 比較

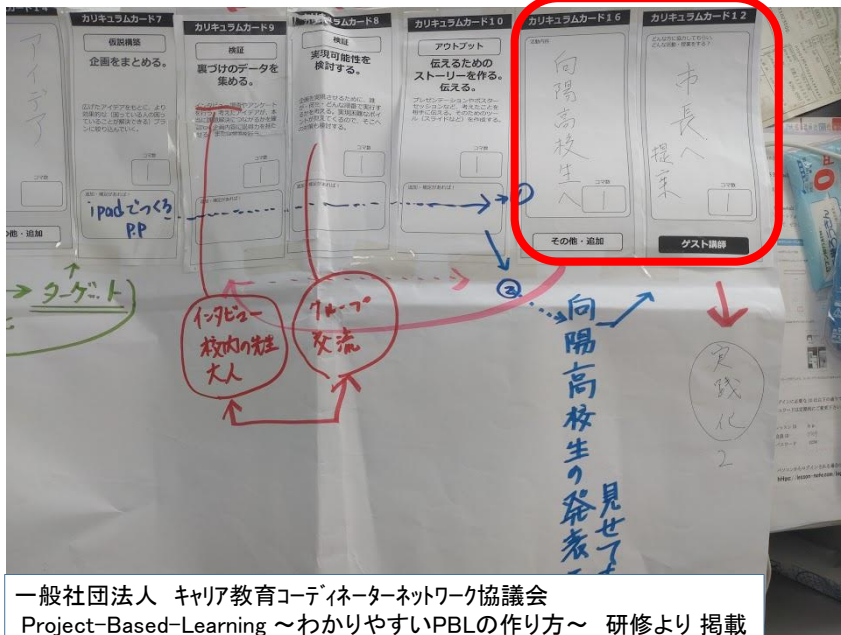
- ・世界遺産の京都市の観光地の様子
- ・向日市に足りないことは何かの考察

一般社団法人 キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会
Project-Based-Learning ~わかりやすいPBLの作り方~ 研修より 掲載

地域とともにある学校



令和3年度の実践 日本遺産認定を目指して、向日市の観光施設をストーリー性のある魅力発信へ



実際には・・・

「長岡京がそんなにすごい所だと知らなかった。都なら**世界遺産**に認定されるかも」

「世界遺産に認定されれば、**もっと観光客が訪れる**」

「世界遺産がダメでも**日本遺産**があるよ。日本遺産は**ストーリー性**が一番大事」

地域とともにある学校



令和3年度の実践 実践をふりかえって

- ・6年生の子どもたちの**学習に取り組む姿勢の高まり**
- ・「調べる」「まとめる」「伝える」活動の充実
- ・PBLの単元づくり、学習の進め方の**イメージ理解** (6年生担任)
- ・**教員のPBL研修とPBL体験**

- ・6年生の担任団のみのPBL
- **全体共有の難しさ**
- **学年の系統性**
- ・コロナ禍における人との関わりの制限
- **市長・向陽高校・他学年**
- ・「世界遺産」「日本遺産」**自分ごとへの距離感**



研究主題 (令和4・5年度)

5向小の長年の課題

自己有用感をはぐくむ教育活動の推進

学校づくりの合言葉

～チャレンジ!あきらめない!みとめあう!みんな大好きスマイル5向～

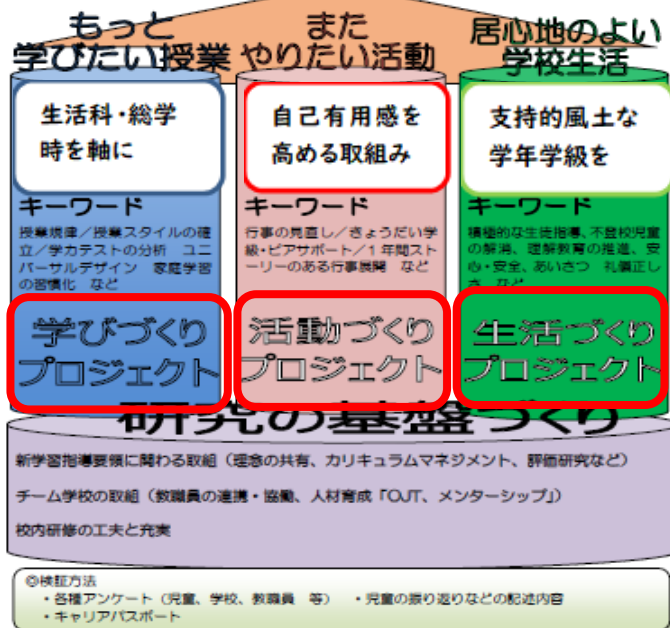
児童が主体的に取り組める生活科・総合的な学習の時間を軸にして

「絆の作り手育成プログラム研究校」との関連

地域とともにある学校



学校組織体制



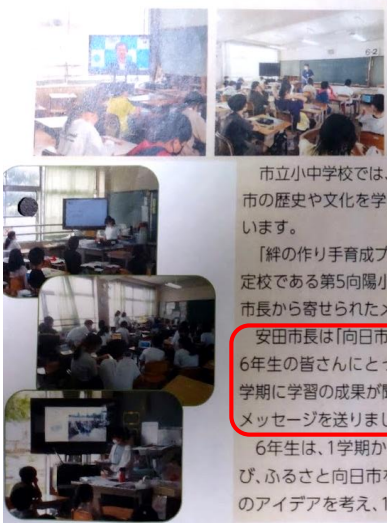
地域とともにある学校




令和4年度の実践 向日市への提言

月	4月	5月	6月	7月
	フェーズ1「向日市の魅力について知ろう」 (10h)			
学習計画	<p>(ねらい) 向日市の魅力について調べ、課題を明らかにする。</p> <p>○向日市のことについて知る。知-① 思-① 学-⑤ ・児童一人ひとりが知っている、向日市(魅力)について発表する ・向日市の現状(良さ・課題など)を知る。 ・向日市が全国に向けてどんなPRをしているか知る。(ICTの活用) 例:向日市のホームページ ・調べた情報が正しいものか考えながら学習を進めるようにする。 ○向日市が全国に向けてPRできるものを調べる。知-② ・向日市の歴史・文化・伝統的なものにはどのようなものがあるか調べる。 ○“向日市の魅力を多くの人に知ってもらおう”という課題を持つ。学-⑤ ・向日市の魅力に気付く。 『向日市長の話』を受けて学習課題をさらに明確にする。 ●高校生との交流を行う。学-④ ・高校生との交流の時間を設定し、高校生と学習を共に深めるよさや学ぶ楽しさを知る。</p>			

ふるさと学習 ～総合的な学習の時間～



地域とともにある学校



向日市広報9月号に掲載

市立小中学校では、総合的な学習の時間などの中で向日市の歴史や文化を学習する「ふるさと学習」に取り組んでいます。

「絆の作り手育成プログラム」の京都府教育委員会研究指定校である第5向陽小学校の6年生が、7月15日(金)に安田市長から寄せられたメッセージ動画を視聴しました。

安田市長は「向日市の歴史や文化財について学び、小学校6年生の皆さんにとって、どのような街が良い街なのか、2学期に学習の成果が聞けることを楽しみにしています。」とメッセージを送りました。

6年生は、1学期から2学期を通して向日市の魅力を学び、ふるさと向日市をより多くの人に知ってもらおうためのアイデアを考え、11月に中間発表を行います。

令和4年度の実践 向日市への提言

8・9月	10月	11月	12月
フェーズ2「向日市の魅力を発信する方法を考えよう」 (35h)			
<p>(ねらい) 課題解決に向け、知識を深め、よりよい表現方法について考える。</p> <p>○交流を通して、自身が知らなかったことに気付く。学-① ・本学習のゴール(未来の姿)をイメージする。 ・自身の課題解決のためには、歴史的事実を知る必要があるという課題に気付く。</p> <p>○文化資料館の見学を行い、歴史的事実を知る。知-② ・朝堂院・大極殿跡を見学する。 ・市の観光戦略を担当する方(広報課)に話を聞き、魅力がけでなく、困り感についても理解する。 ・向日市の歴史(文化)の中で、自身がどこに焦点を充てるのかを決め、課題設定を行う。 ・上記を踏まえグループに分かれて、今後の学習計画を立てる。 ○京都市の歴史遺産を見学し、向日市との比較資料とする。知-② ・視点をはっきりとさせた上で見学を行う。 ・自身の現在持っている知識量を確認する。 ・観光客にインタビューを行う。 ○多くの人に魅力を知ってもらうためのアイデアを模索する。思-③ 学-② ・発表方法をどのようにするのかを考え、そのことをプレゼンテーションソフトにまとめる。 ●高校生のプレゼンを見せてもらい、自分たちの発表方法を修正する。思-④ ・プレゼンの方法に視点を置き、自身のプレゼンと比較しながら見るようにする。 ○向日市長(広報課)にアイデアの原案を発表する。思-⑤ ・改善点等足りないものを聞く。 ・最終発表を3学期に見てもらおうことを伝える。</p>			



文化資料館の見学



見学者インタビュー



市長に提案



文化資料館の見学



高校生のプレゼン



向日市長 提言

地域とともにある学校



リポート 探究視聴

令和5年度の実践

2023向日市活性化プロジェクト みんなでチャレンジし、行動した先にあったものとは

動機付け

- ・昨年度の6年生の提言を受けて、今年度は行動を起こす。【行動を伴う地域貢献を】
- ・自分たちで発案し、自分たちでプロジェクトを進めていく。

令和5年度の実践 2023向日市活性化プロジェクト

みんなでチャレンジし、行動した先にあったものとは

【導入】

1. 向日市の特色・魅力

○：歴史・野菜・住みやすさ・安全面

△：娯楽施設がない・観光地が少ない

2. みんなにとって魅力的な町にするために

娯楽施設の充実・観光スポットの充実・特色を生かす



人が集まる町

3. 方法と準備

方法：市外、他府県の観光客に魅力を伝える・メディアで発信

準備：本やインターネットで調べる・フィールドワーク・話を聞く

令和5年度の実践 「2023向日市活性化プロジェクト」

～みんなでチャレンジし、行動した先にあったものとは～

【行動】

1. フィールドワーク

古墳・向日神社・寺・遺跡(大極殿・朝堂院)・文化資料館など

△「跡地(遺跡)だけでは魅力とは言えない。」

○「文化資料館で残っているものが見れてよかった。」

→現存している具体物や施設、ものに興味・関心



2. 埋蔵文化財センター

古墳について・出土品について

3. 魅力に感じたこと、興味をもったものについて、調べてPPTにまとめる。

令和5年度の実践 2023向日市活性化プロジェクト

みんなでチャレンジし、行動した先にあったものとは

【行動2】

1. 資料の作成

- ・京都市内の観光客を対象とした資料
- ・向日市への集客を目的とした資料

2. PRの練習

- ・家庭:感想と向日市の魅力について聞く。

3. 京都市内観光地にて、観光客を対象に向日市の魅力をPRする。

視点:向日市に魅力を感じられるか・向日市に来たいと思えるか

※formsでアンケートを実施する。



令和5年度の実践 2023向日市活性化プロジェクト

みんなでチャレンジし、行動した先にあったものとは



令和5年度の実践 2023向日市活性化プロジェクト

みんなでチャレンジし、行動した先にあったものとは

探究を貫く問い 400文字でまとめる
「みんなでチャレンジし、行動した先にあったものとは？」

- ・色々な年代の人と関わることが本当に楽しかった（人とのつながり）
- ・プレゼン力
- ・心からの達成感
- ・どうやったらみんなに魅力を伝えられるのかという考える力
- ・去年の6年生の思いを引き継ぎ、形にできた熱い思い
- ・苦手なことでもみんなとならば、何でもできるという気持ち
- ・向日市は歴史が深いまちだと実感
- ・向日市にずっと住み続けたい
- ・これからも社会の課題を解決してみたい

学校全体で大切にしてきたこと

キーワード

- 『单元・授業づくりの視点』
- 『児童の見取り』 『授業研究』
- 『向陽高校との関わり』 『研究の連続性』
- 『生活科・総合的な学習の時間』



地域とともにある学校



单元・授業づくりの視点

重点課題『絆の作り手育成プログラム研究校』

めあて

- ①研究授業を通して、子どもたちの自己有用感の向上、郷土、人、モノとのつながりを大切にできる人を育てていく。
- ②協働的に研究を進め、教員一人一人の授業力向上を目指す。

本気になる条件(郷土・人・モノ)

- ①自分と材との関係
- ②人の魅力
- ③材の魅力

单元・授業づくりのポイント

- ①児童が本気になる 主体的に取り組んでいけるような单元構成や本時であるか。
- ②児童たちの変容を具体的に捉えられているか。
- ③深い学びにつながるための仕掛け(教材・教具)、発問であるか。

地域とともにある学校



児童の主体的な姿を見とる 一人一人の変容を

- ・目がキラキラ、表情が生き生きしている。前のめりである。
- ・友達と活発に意見を交わし、思考が深まったり、広がったりしている。
- ・「そうか!」「わかった!」など気づきがある。
- ・「◎◎したらどうだろう」「こうしてみよう」考察して試している。
- ・学習時間以外でも、調べたり、話題にあげたりしている。



5向小の授業研

地域とともにある学校



授業研の在り方

事前研(全体)

6グループに分かれて、指導案、めあて、教材の吟味、精査する。学年の悩みや協議してほしいことを一番に行う。

↓

事前授業(低・中・高グループで参観・事後研)

↓

本授業(全体)

主に児童の学習や活動の様子に注目する。児童の学習中の言動や、態度、振り返りなどから児童の変容や学びを見取る。

↓

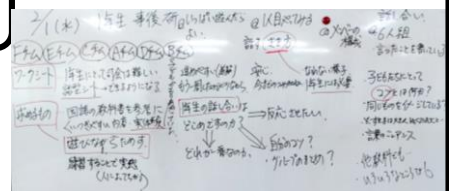
事後研(全体)

児童の主体性や深い学びが見取れる授業だったのか。成果と課題を協議し、研究を残していく。

↓

事後授業(低・中・高グループで参観・事後研)

学年や学校全体で、大切にしてきた考え方やこれからは生かすことを共有する。→研究の連続性



研究の連続性 単元が違うからこそ つなぐ思い

11月 2年生「もっとまちたんけん」

- ・直接足を運び、アポイントメント
- ・個々の興味関心をもとに、課題設定～探検～まとめまで行う
- ・少人数で探検に行くことの特別感と、そのことを伝える責任感

9月 5年生「野菜マイスターになろう」

- ・単元のゴール&道のりのイメージ
- ・グループごとへの適切な指導・助言
- ・子どもが学習活動の目的を理解
- ・単元導入での動機付け（外部機関からの動画メッセージ等）



5月 4年生「生活とかんきょうちょうさい」

- ・単元のゴールイメージ
- ・個をしっかりとつ
- ・話し合い活動の系統（国語科）
- ・友だちの意見（グループ活動など）をどう活かすか。

11月 6年生「向日市活性化プロジェクト」

- ・単元のゴール（目標の）イメージ
- ・児童の発案で進んでいくプロジェクト
- ・生の声を聞くことができる活動と、その声を活かして次のスパイラルへ（プレゼン・アンケートなど）

9月 たけっこ「たまねぎの環」

- ・異学年での学びあい
- ・各々が自分事として捉えられるような課題の設定
- ・児童が見通しを持てるように、6年間を見越した年間プランニング



6月 1年生「がっこう大好き」

- ・単元のゴールイメージ
- ・生の声を聞く（その場に行く）
- ・気付きの質を高める（教師のコーディネート含む）
- ・学習の足跡を残す



校区の向陽高校とのつながり 欠かせない



高校生の学習プログラムに参加



高校生からアドバイスを



向陽高校を探検



毎月のあいさつ運動

現場の実践や生徒の姿から、「エンジン駆動」の構造を仮説化



三菱みらい育成財団

地域連携

向日市観光協会主催の「竹の径・かぐやのゆふべ」への企画提案と協力

「街灯が少なく安全面に課題があるため、誘導路を明るくした
⇒向日市の特産物である竹を使って、ライトアップしよう!



地域を知ろうPJ(夏季研修)

- ・5向小校区の施設、事業所等の見学を通して、児童の取材力や質問力を高める指導の向上を図る。
- ・5向小校区の施設や事業所等の紹介交流を通して、5向小の地域をより深く理解する。

取材した施設・事業所等

- ・吹田総合車両所 京都支社
- ・向日市埋蔵文化財センター
- ・向日市上植野浄水場
- ・上植野城公園南部防災拠点
- ・ひまわり園
- ・向日市体育館
- ・上植野公民館
- ・法華寺



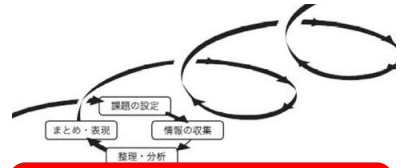
地域とともにある学校



活用できる年間指導計画へ



「総合的な学習の時間」年間指導計画		第6学年【テーマ：「伝えよう！向日市の魅力」(70分間)】	
学校 目標	【本まきま はつらつ 夢がかがやく学校】 【めざす児童像】 ○自ら学び、よく考える子 ○健康・安全に努め、体を鍛える子 ○他を思いやり、豊かな心をもつ子	単 元 目 標	【学年目標 結びつき】 向日市の魅力を発信するための活動を通して、向日市の歴史、文化、伝統的なものよりに関心を持ち、向日市が全国にPRできるものと考え、向日市を表すプレゼンテーションを行うことで、地域との繋がりを深め自分と実生活・社会の課題の解決に取り組みようとする態度を育てる。
2. 探究的・発見・考え方を働かせ、地域の人も、ことに関する総合的な学習を通して、目的や課題を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようになるために、以下の資質・能力を育成する。	単 元 目 標	【探究的・発見・考え方を働かせ、地域の人も、ことに関する総合的な学習を通して、目的や課題を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようになるために、以下の資質・能力を育成する。】 単元目標 向日市の魅力を発信するための活動を通して、向日市の歴史、文化、伝統的なものよりに関心を持ち、向日市が全国にPRできるものと考え、向日市を表すプレゼンテーションを行うことで、地域との繋がりを深め自分と実生活・社会の課題の解決に取り組みようとする態度を育てる。	【探究的・発見・考え方を働かせ、地域の人も、ことに関する総合的な学習を通して、目的や課題を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようになるために、以下の資質・能力を育成する。】 単元目標 向日市の魅力を発信するための活動を通して、向日市の歴史、文化、伝統的なものよりに関心を持ち、向日市が全国にPRできるものと考え、向日市を表すプレゼンテーションを行うことで、地域との繋がりを深め自分と実生活・社会の課題の解決に取り組みようとする態度を育てる。
3. 探究的・発見・考え方を働かせ、地域の人も、ことに関する総合的な学習を通して、目的や課題を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようになるために、以下の資質・能力を育成する。	単 元 目 標	【探究的・発見・考え方を働かせ、地域の人も、ことに関する総合的な学習を通して、目的や課題を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようになるために、以下の資質・能力を育成する。】 単元目標 向日市の魅力を発信するための活動を通して、向日市の歴史、文化、伝統的なものよりに関心を持ち、向日市が全国にPRできるものと考え、向日市を表すプレゼンテーションを行うことで、地域との繋がりを深め自分と実生活・社会の課題の解決に取り組みようとする態度を育てる。	【探究的・発見・考え方を働かせ、地域の人も、ことに関する総合的な学習を通して、目的や課題を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようになるために、以下の資質・能力を育成する。】 単元目標 向日市の魅力を発信するための活動を通して、向日市の歴史、文化、伝統的なものよりに関心を持ち、向日市が全国にPRできるものと考え、向日市を表すプレゼンテーションを行うことで、地域との繋がりを深め自分と実生活・社会の課題の解決に取り組みようとする態度を育てる。
4. 探究的・発見・考え方を働かせ、地域の人も、ことに関する総合的な学習を通して、目的や課題を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようになるために、以下の資質・能力を育成する。	単 元 目 標	【探究的・発見・考え方を働かせ、地域の人も、ことに関する総合的な学習を通して、目的や課題を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようになるために、以下の資質・能力を育成する。】 単元目標 向日市の魅力を発信するための活動を通して、向日市の歴史、文化、伝統的なものよりに関心を持ち、向日市が全国にPRできるものと考え、向日市を表すプレゼンテーションを行うことで、地域との繋がりを深め自分と実生活・社会の課題の解決に取り組みようとする態度を育てる。	【探究的・発見・考え方を働かせ、地域の人も、ことに関する総合的な学習を通して、目的や課題を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようになるために、以下の資質・能力を育成する。】 単元目標 向日市の魅力を発信するための活動を通して、向日市の歴史、文化、伝統的なものよりに関心を持ち、向日市が全国にPRできるものと考え、向日市を表すプレゼンテーションを行うことで、地域との繋がりを深め自分と実生活・社会の課題の解決に取り組みようとする態度を育てる。



- 探究のサイクル
- 全体計画との関連
- ふるさと学習
- 人・モノ・こと
- 全学年のもの

成果と課題

- ・児童の意識の変化や思考の変容
- ・行動を伴う地域貢献に向けて挑戦
- ・郷土の人とのつながり
- ・教職員の協働的姿勢の高まり

地域とともにある学校

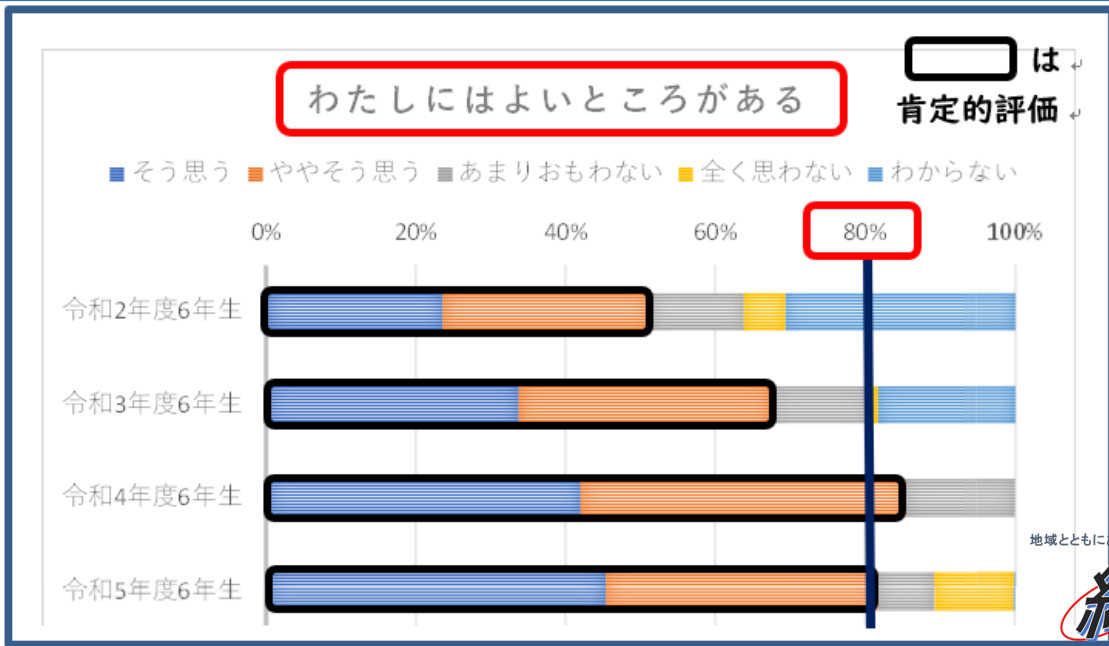


成果

- ・さらなる児童の成長・実感
- ・他教科への発展
- ・地域の探究人発掘・継続的な関わり

課題

子どもの変容・成長



子どもの変容・成長

総合的な学習の時間を1年間勉強してみて、向日市の歴史のことも知らなかったし、ひどくって**向日市のことなんか調べてどうなるの?**とっていました。でも、向日市のことを自分のことと考えると、みんながくらしやすいように、そして魅力を高めるにはどうすればよいかを**最後まで考えることができました**。お年寄りから小さい子までが楽しめるしようと考え、実は**家族とも相談**していました。**向日市のことをすきになってくれるように考えつづけた**ことがたのしかったです。(6年児童)

ぼくは、4年生で地域の水のことについて考えてみました。本当にこの1年間で**自分の調べ方が変わった**と思いました。みんなの発表を聞いて、いろいろな表現方法があるんだなと思いました。総合的な学習の時間では、「**調べることに終わりはない**」と気づきました。(4年児童)

わたしたちの探究というのは、**自分たちで探検しながら、研究をずっとし続ける**みたいなものかな。まだまだけど、**探究していきたい**。(絆リーダー)

これからの5向小

向日市立第五向陽小学校 重点研究の方向性

3年間の研究で
残ったもの・残したい思い

府小研
研究協力校
「社会科」

探究（人）

地域フィールドを最大
限活用した単元構成

持続可能な教職員研修

学年	探究のテーマ	探究の目的	探究の成果
4年	地域を支える人々	「地域を支える人々」の役割を調べる	地域を支える人々の役割を調べる
3年	地域を支える人々	「地域の防災」の役割を調べる	地域の防災の役割を調べる
2年	校区や校区に住む人々のくらし	「学校や地域」の役割を調べる	学校や地域の役割を調べる
1年	自分、家族、友達とつながる	「学校を楽しむ」の役割を調べる	学校を楽しむの役割を調べる

学年	探究のテーマ	探究の目的	探究の成果
4年	地域を支える人々	「地域を支える人々」の役割を調べる	地域を支える人々の役割を調べる
3年	地域を支える人々	「地域の防災」の役割を調べる	地域の防災の役割を調べる
2年	校区や校区に住む人々のくらし	「学校や地域」の役割を調べる	学校や地域の役割を調べる
1年	自分、家族、友達とつながる	「学校を楽しむ」の役割を調べる	学校を楽しむの役割を調べる

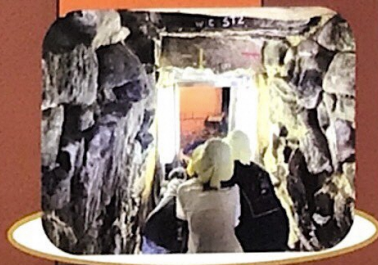
これからも 学校全体で 協働的に



令和3年度～5年度 京都府教育委員会指定
「絆の作り手育成プログラム研究校」3年次
令和5年度 向日市教育委員会研究指定校

児童の本気を目指した

探 究



研究主題

自己有用感をはぐくむ教育活動の推進

～チャレンジ!あきらめない!みとめあう!

みんな大好きスマイル5向

児童が主体的に取り組める生活科

総合的な学習の時間を軸にして

の 扉



向日市立第5向陽小学校

KIZUNA
絆

令和3年度 6年生の実践

「日本遺産認定を目指す」

～ストーリー性のある魅力を発信～

☆世界遺産を目指して

- ・歴史深い向日市の魅力を自分たちが知り、自分たち以外の人にも知ってほしい、という願い
- ・世界遺産登録に携わった方から苦労や維持の大変さを聞く
- ・世界遺産への道が傾斜し、その学びから次なる道の模索

☆日本遺産認定への挑戦



- ・日本遺産について理解を深める
- ・京都市の歴史遺産を学ぶ
- ・認知度の低さという課題を克服するために考察する
- ・日本遺産認定に必要なことを追究する(向日市の歴史遺産をストーリーに紡ぐ)

☆伝えたい思いをストーリーに

- ・向日神社をルーツに持つ明治神宮
- ・訪れた人がタイムスリップできる場所“長岡京”
- ・強みは未発掘な魅力がたくさんあること



次年度に向けて

- ・ターゲットとなる発信したい相手先とつながる難しさ
- ・課題を自分ごととして捉えさせるための仕掛けづくり
- ・情報収集のための時間の確保

令和4年度 6年生の実践

「向日市への提言」

～①実現可能②向日市民が向日市を好きに③小学生らしさ～

☆市長からのビデオメッセージ



- ・外発的動機付け
- ・誰に伝えるのかを明確にした学習
- ・市の企画広報課に協力を要請
- ・「私、すごいんだ!」と思わせる仕掛け

☆探究のスパイラル



- ・本時のめあてを明確に、進む方向が曇りなく見えるように
- ・トライ&エラーを繰り返し、よりよいものを探し続ける姿
- ・昨年度までの知識や経験を活かした学習
- ・思考を働かせ続けることを意識した単元構想
- ・市長や高校生への発表→次のスパイラルへ

☆提言会でのプレゼンテーション

- ・自分にできることを考え、それぞれの方法で表現
- ・個の思考を大切にしたい授業づくり
- ・大人から受ける評価により高まる満足感、手ごたえ

次年度に向けて

- ・“総合的な学習の時間”だからこ輝ける“個”を意識
- ・どんどん向日市を好きになる子どもたちの姿をイメージ
- ・自分の想いを『届ける』を意識した課題設定
- ・実際に行動に移すことのできなかった現実
- ・早い段階(4月)からのプランニングの必要性
- ・後輩へ繋ぐ思いや願い

令和5年度 6年生の実践

「2023向日市活性化プロジェクト」

～みんなでチャレンジし、行動した先にあったものは～

☆向日市魅力調査



- ・史跡を巡り、向日市の歴史を調査(情報収集)
- ・市埋蔵文化財センターとの連携
- ・物集女車塚古墳の石室見学をして、歴史を感じる
- ・上植野の魅力と出土品の観賞
- ・市の取り組みや悩みを知る(市の企画広報課)
- ・向日市の魅力を整理・分析

☆向日市の魅力を伝えよう・広めよう



- ・グループごとに、向日市の魅力を伝えるプレゼンテーションを実施
- ・向日市の魅力をまとめ・表現
- ・魅力の伝え方の模索
- ・保護者や同級生の声をもとに、内容をブラッシュアップ
- ・京都市の観光地にて、行動
- ・行動の成果をアンケート調査
- 次のスパイラルへ

☆向日市民に向けて行動



- ・「対 市外住民」から「対 市内住民」へ、視点の切り替え
- ・市の企画広報課と連携
- ・郷土愛を抱かせる行動へ
- ・地域施設や市内小学校・近隣高校へ発信 →行動
- ・行動の成果をアンケート調査
- 次のスパイラルへ

3学期 実施予定

- ・下級生や他校の児童、保護者に魅力発信
- ・向日市 GOGO ツアーの実施(向日市民対象)
- ・みんなでチャレンジ、行動した先にあったものの考察
- ・現5年生に「できたこと・できなかった」の伝達(思いや願いも)

他学年の実践・こだわり

☆たけっこ学級「たまねぎの環」

1年間の植物の栽培や収穫など体験活動を通して得られる言語活動を学びの基盤としている。また調理や染め物の学習では、異学年間で心や言葉がつながることも大切にしている。



☆1年生「がっこう だいすき」

5向小の色々な教室に行き、インタビューをして知ったことを学級で発表した。それぞれの教室の秘密を知りたいに学校のことが大好きになっていった。休み時間にも、もっと知りたいことをさらに聞きにいって児童も見られ、主体的に取り組んだ。



☆2年生「もっとなかよし まちたんけん」

1学期の校区探検をさらに深め、実際に見たり聞いたりして、地域のよさと地域の人のよさを感じとらせた。何度も探検に行き、人と関わり、なかよくなることを目指している。



☆3年生「5向小地域探検隊」

社会科の学びを広げ、校区にある公共施設やお店、そこに携わる人に注目して調べ学習を進めた。さらに深く知りたいことを自分で選び、クイズやカルタにまとめた。「総学時は楽しい」と思わせたい。



☆4年生「生活と環境調査隊」

第5・6学年で行っていく探究的な学習より深い学びにするため、協働的に学ぶことを意識しながら、探究的な学習(PBL)のプロセスを学んだ。

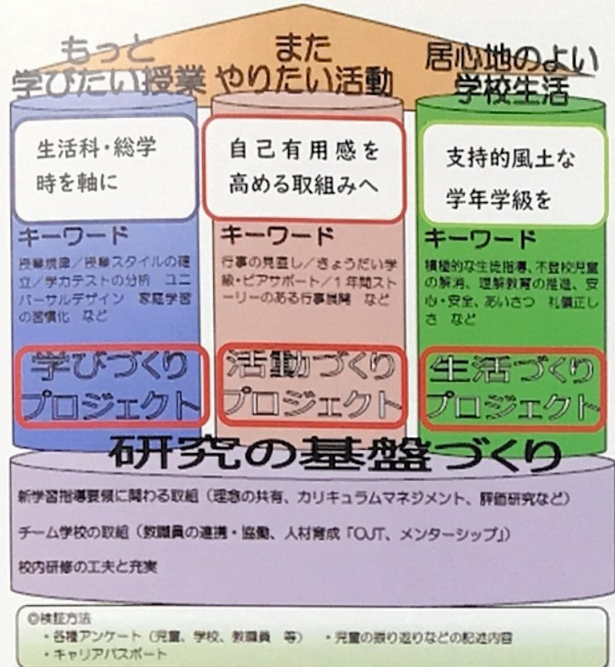


☆5年生「野菜マイスターになろう」

子どもたちが「向日市の野菜の魅力」について仮説を立て、その仮説を立証した。そのために、必要な情報を絞り、調べる方法を子どもたち自身が考え、調べた。



学校組織体制



1年生を迎える会

1年生が、上級生たちに5向小のことを教えてもらいながら歓迎されることで学校の一員になったことを実感する行事

成果

- ・2～6年生は、学校紹介や歌・クイズなどを通して、1年生を5向小の仲間として温かく迎えることができた。
- ・6年生は、自分たちの力で全校のために運営する経験を通して、学校のリーダーとしての自覚をもつことができた。

自分たちが創りあげる児童会行事

すまいるフェスタ

児童会スローガン「笑顔とおもいやりが芽生える学校」をもとに、高学年が意見を出し合いながら低学年のために遊びのコーナーを創る行事

成果

- ・よりよい行事となるように目標を常に意識して振り返りを積み重ねながら取り組むことができた。
- ・「低学年が喜んでくれる姿」をイメージしながら、自分の役割を責任をもって果たすことで高学年として活躍できたという達成感をもつことができた。

探究アドバイザー 加納氏からの学び

- ゴールの姿「自分で見つけた新たな価値を自分の生活や生き方に生かす」を見通した子どもが思考する授業を模索する。
 - 生活科でも総学時でも他教科でも考える授業を積み重ねる。
 - 教科固有の見方・考え方を働かす(生かす)授業を意識する。
- 子どもが1時間を通し思考し続けるような発問の工夫を行う。
 - 小さく入って展開の中で豊かに学ぶ。*思考を切らない。
- 1時間の授業プランを構想する。
 - 展開の中で授業の核をつくる(焦点化・教師の「でば」)
 - 構造的な板書で思考の整理をする。

研究の成果

- 児童の意識の変化や思考の変容が見られた。
 - 「地域には面白い所がたくさんある」「向日市のことを考えるのが楽しい」「探究に終わりはない」と振り返る児童
 - 「わたしにはよいところがある」肯定的回答80%以上
- 児童が、行動を伴う地域貢献に向けて挑戦することができた。
 - 「日本遺産」「向日市への提言」からのステップアップ
 - 京都市内での魅力発信、向日市内 GOGO ツアーの企画運営
 - 学校外の人と関わり、承認される達成感
- 5向小を応援してくださる郷土の人とのつながりが深まった。
 - まずは、教職員が地域を知り、郷土の人と関わるところから
 - コロナ禍における人との関わりの制限から、「今できること」を優先的に
 - 応援して下さる地域の人(探究人)は、直接関わった方だけでも92人。
- 学校全体での取組になり、教職員の協働的な姿勢が高まった。
 - 6年間のゴールイメージの共有「向日市をずっと住み続けたい街に」
 - 「生活科」「総合的な学習の時間」を軸とした授業実践の積み重ね
 - 「児童の姿で語る」を中心とした研究授業・事後研究会

課題

- さらなる児童の成長・実感へつなげていく。
 - 「学校へ行くのが楽しい」「あきらめない気持ち」「学ぶ面白さ」の向上
- 授業づくりや単元構想を他教科へも広げていく。
 - 「児童中心」「児童が主役の学びのストーリー」の構築
 - 児童に付けたい力は、「児童の探究心」「自己有用感」
 - 「課題解決型学習」を目指した授業力向上
- 地域の探究人発掘と継続的な関わりを目指す。
 - 探究人との思いや願いの共有
 - 教職員だれもが探究人とつながる仕組みと活用の模索

これからの5向小

令和6年度～令和8年度

京都府小学校教育研究会 社会科の研究協力校
大切にしたい思い

- ・児童も教職員も地域の方々も「探究人」
- ・5向小周辺の地域フィールドを最大限活用した単元構成
- ・「誰もがいつでもできる授業」を軸に持続可能な教職員研修

これからも、5向小は保護者や地域とつながり、「探究」する気持ちを高め、自己有用感をはぐくみながら教育活動をすすめていきます。どうぞよろしくお願ひします。

<p>学校目標</p>	<p>『生き生き はつらつ 命がかがやく学校』 【めざす児童像】 ○ 自ら学び、よく考える子 ○ 健康・安全に努め、体を鍛える子 ○ 他を思いやり、豊かな心をもつ子</p>	<p>単元目標</p>	<p>【学年目標 challenge6】 向日市の魅力を発信するための活動を通して、向日市の歴史、文化、伝統的なもののよさに気づき、自分たちの町に魅力と誇りを感じ、それらを伝えることができる。</p>											
<p>（資質・能力） 総合目標</p>	<p>探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、モノ、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。 (1)地域の人、モノ、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさに気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。 (2)地域の人、モノ、ことの中から問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり、調べて得た情報をもとに考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。 (3)地域の人、モノ、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。</p>													
<p>月</p>	<p>4月</p>	<p>5月</p>	<p>6月</p>	<p>7月</p>	<p>8・9月</p>	<p>10月</p>	<p>11月</p>	<p>12月</p>	<p>1月</p>	<p>2月</p>	<p>3月</p>	<p>単元の評価規準</p>		
<p>学習計画</p>	<p>フェーズ1「向日市の魅力について知ろう」 (15h)</p>			<p>フェーズ2「向日市の魅力を発信する活動を通じて、自分もその魅力やよさについて感じ取ろう」(45h)</p>			<p>フェーズ3「向日市の魅力を次の年代に繋げよう」 (10h)</p>			<p>知識及び技能</p>	<p>思考力判断力表現力等</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p>		
<p>学習計画</p>	<p>(ねらい) 向日市の歴史について調べ、興味・関心をもつ。 ○向日市の魅力について話し合い、課題解決に向けた学習課題を見出そう。思②、主① ・魅力について交流する。 ・課題について交流する。 ・魅力を伝えたり、課題を解決したりするための方法を話し合い、活動内容を定める。 ○向日市の文化財について知り、興味・関心をもったものをプレゼンテーションソフトでまとめよう。知②、思①②、主① ・向日市の歴史について調べる。 ・フィールドワークを行う。 ・向日市の遺跡や古墳、出土品などの話を聞く。 ・プレゼンテーションソフトでまとめる。</p>			<p>(ねらい) 課題解決に向け、知識を深め、よりよい表現方法について考える。向日市のよさを再確認し、自分と実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとする態度を養う。 ○市外の人々に、向日市の魅力を伝えよう。知①②、思①②⑤⑥、主②③ 【向日市に観光客を集客し、地域を活性化させる。】 ・向日市長からのメッセージから、学習課題を確認する。 ・向日市役所産業振興課が行っている、向日市の魅力を伝えるための取組を知る。 ・プレゼンテーションソフトやポスター、フリップ等を用いて、プレゼンテーション資料を作成する。 ・保護者や教職員に向けて、プレゼンテーションの練習をして、課題の改善を行う。 ・京都市内の観光地を回り、向日市の魅力を伝える。 ・観光客からの感想を受けて、“市外の人々に、向日市の魅力を伝える”という取組の成果と課題を振り返る。 ○向日市にゆかりのある人々に、向日市の魅力を伝えよう。(街頭でプレゼンテーション) 知①、思②③④⑤⑥、主②③ 【向日市にゆかりのある人々が、地域の良さを知り、魅力的な町になる。】 ・観光ガイドの話を聞く。 ・プレゼンテーション資料の作成と練習を行う。 ・プレゼンテーション場所へ、許可申請を行う。 ・向日市にゆかりのある人々に、向日市の魅力を伝える。 ・街頭プレゼンを振り返り、より向日市の魅力が伝わるにはどうすればよいかを考える。 ○向日市にゆかりのある人々に、向日市の魅力を伝えよう。(観光地ガイド) 知①、思②④⑤⑥、主③④ ・観光ガイドの話を聞く。 ・観光ガイドの方法を検討する。 ・観光ガイドのPRを行う。＊店頭ポスター掲示依頼や、向日市HP、SNS、広報誌などの活用 ・高校生に向けて、ガイドシミュレーションをして、課題改善を行う。 ・向日市ガイドツアーを行う。 ・取組の成果と課題を振り返る。</p>			<p>(ねらい) 下学年に活動内容を発表し、次年度の活動に繋げる。 ○下学年(5年生)に活動内容を発表しよう。思② ・本年度の学習の過程を振り返り、発表に向けて整理する。 ・活動内容を発表する。 ○探究を貫く問い「みんなでチャレンジし、行動した先にあったもの」は何かについて考えよう。主②③④ ・自分の考えを400字程度にまとめる。 ・まとめたものを交流し、互いの学びの成果や考えを受け入れ、尊重しながら、探究活動の意義についても気付く。 期待する思い ・学校を超える学びの楽しさ、人と関わる気持ちよさ ・魅力ある大好きな町、わたしたちの向日市 ・自分たちも社会の役にたてる</p>			<p>①それぞれの「探究課題」について自分達の生活との関わりが分かる。 ②情報を比較・分類・関連付けるなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。</p>	<p>①地域の人々等の思いをふまえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見直しを持って追究している。 ②目的に応じて手段を選択し、情報を収集したり、必要な情報を選んだりしている。 ③視点を明確にして問題状況における事実や関係と、整理した情報を関連付けたり、多面的に考察したりして理解し、多様な情報の中にある特徴を見付けている。 ④保護者や高校生、聞いてくださった方々等のアドバイスを参考にしながら、より向日市の魅力が伝わる方法を考えることができている。 ⑤相手や目的、意図に応じ、工夫してまとめ、表現している。 ⑥学習の仕方を振り返り、学習や生活に生かそうとしている。</p>	<p>①課題意識をもって、自分なりの方法を工夫しながら探究活動に取り組んでいる。 ②課題解決に向けて、他者と協働して探究活動に取り組み、その大切さに気付いている。 ③異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重しながら、探究活動に取り組んでいる。 ④探究活動を通して、自分と実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとする。</p>		